

## 題材名 「ちいちゃんのかげおくり」

**目標** 工夫して音読した友だちの録音を聞き、アドバイスをすることができる。

友だちからのアドバイスをもとに自分の音読を見直し、工夫して音読することができる。

### コンピューターを活用する利点

今までの音読指導の問題点は、音読に対する意欲が低い。個に対応した指導が難しい。お互いの音読を聞ける機会が少ない。(時間的に厳しい)本読みテストなど断片的な評価になりがちであった。それに対して、サウンドレコーダー(スタディノート)を使った音読練習・録音のメリットは、自分の音読をすぐに自分の耳で確認することができる。コンピューターの台数分、一斉に録音する事が出来る。間違えた場合も、いつでも何度でもやり直しができる。音声をデータ化しているため、容易に加工や複製、発信が出来る。また、スタディノートのデータベース機能を使った相互評価では、他のグループの音読を簡単に再生して聞くことが出来る。音読を聞いた児童の感想はデータベースに蓄積され、音読をした児童はすぐにそれを見ることが出来るので、次の音読に生かすことが出来る。(上記のような「音読1 感想 音読2 ……」という学習の流れが蓄積されていくことにより、デジタルポートフォリオとなる。)

### 授業の流れ

本時のめあて「友だちの音読を聞いてアドバイスをしよう」を確認する

データベースから友だちの音読を取り出しアドバイスをして情報として加える。

データベースから自分の音読に対してのアドバイスを取り出し、音読の仕方について見直しをする。

見直したポイントをもとに2回目の音読の練習をし、データベースに入れる

### ICT活用場面

- 1 データベースから友だちの音読を取り出しアドバイスをして情報として加える場面。
- 2 データベースから自分の音読に対してのアドバイスを取り出し、音読の仕方について見直しをする場面。
- 3 見直したポイントをもとに2回目の音読の練習をし、データベースに入れる場面。

以上の3点についてICTを活用した。



### 成果と課題

ICTを活用することによって、子どもたちは自分の音読をすぐに自分の耳で確認することができた。そのため、今まで音読する回数だけを気にしていたのが、声の大きさ、速さなどに注意を向けることが出来るようになった。またデジカメやコンピュータの操作等のスキルアップも顕著になってきた。そして、人との交流の中で関わり合いを持つために、対話を音声言語より文字言語を重視し、コンピュータを利用した方法を採用したために、児童の考えや意見の変化は後で検討できるようになった。

しかし、音読のようすをとらえることが出来ても、まだ主観的な判断しかできない児童も多い。そのため、どうしたら上手に音読できるかという点について絞ってアドバイスするには、個々の子どもたちの判断基準等のレベルアップを図らなければならない。また、入力には個人差があり全体的なスキルアップも必要である。

### ICT活用環境等

使用周辺機器	デジタルカメラ
使用ソフト名	スタディノート
使用教室	コンピュータ教室